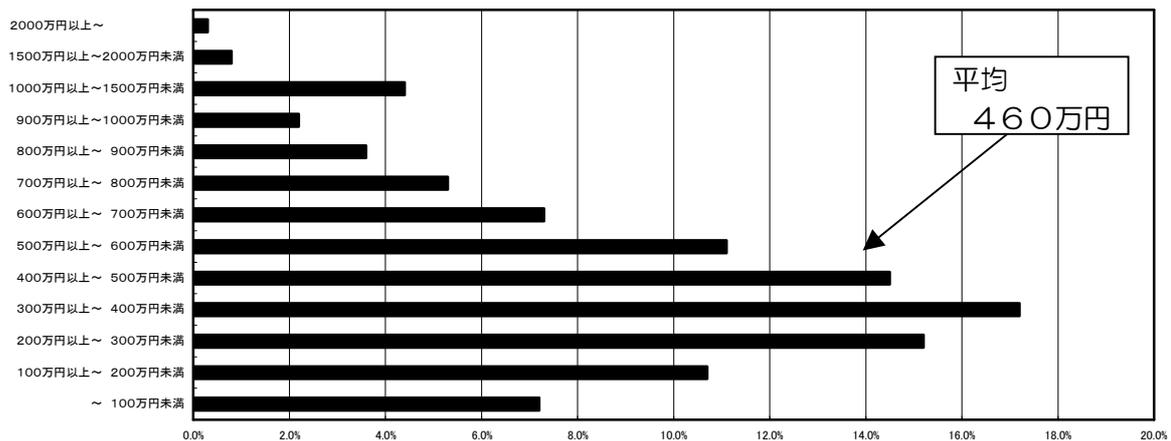


私の近未来～正規雇用とフリーター～Ⅲ

シンクタンクのUFJ総合研究所によると、15歳～34歳の正規雇用の平均年収は384万円なのに対し、フリーターは119万円。生涯年収では、正規雇用が約2億4000万円で、フリーターが約7000万円。約1億7000万円もの差が生じます。この平均年収をもとに同研究所が試算した納税額は、正規雇用が約65万円、フリーターは24万円弱です。また、国税庁の「民間給与実態調査」によると、労働者の約半数は年間所得が400万円未満です。ちなみにここ数年、平均年間所得は460万円とのことだそうです。半分以上の労働者は400万円未満なのに、平均額は460万円。高額所得者たちが平均額をつり上げているのでしょうか…。

日本における労働者の年収の割合（1996年）



国税庁『民間給与実態調査』

ところで、社会科の教科書には「正規雇用」「フリーター」「派遣」「請負」といった語句は一切ありません。「労働組合」や「労働災害」という語句は太字で紹介されていますが…。私自身、このような学習を特別な単元として扱ったのにはいくつかの理由があります。詳細については紙面の都合上述べられませんが、その理由を1つだけ挙げるとすると、4年前の夏に民間の社会科教育団体が主催する研究会の全国大会に参加したことも、そのきっかけになりました。この会で定年を間近に控えた広島県のある先生が「モノ・カネ・効率」を優先させる社会に疑問を投げかけていました。経済的な視点でみると「フリーター」には確かにマイナスの面もたくさんありますが、「フリーター」を悪（あく）とするだけの見方には首をかしげます。「フリーター」として自分らしく生きている若者たちがたくさんいることも事実です。授業の中で紹介した「カラオケボックスでアルバイトしながら歌手をめざす女性」や「正規雇用と決別して沖縄へ移住した男性」の姿をDVDで視聴したのは、そういう若者の姿も知ってほしいと思ったからです。

正規雇用は幸せで、フリーターに比べると楽しそうなイメージがあったけど、正規雇用で働く人々の中には、働きすぎて亡くなってしまう人がいるんだなあと思いました。フリーターはお金や生活費がたいへんそうに感じました。フリーターと正規雇用はそれぞれいいところもあるけど、どちらもたいへんそうだと思います。